



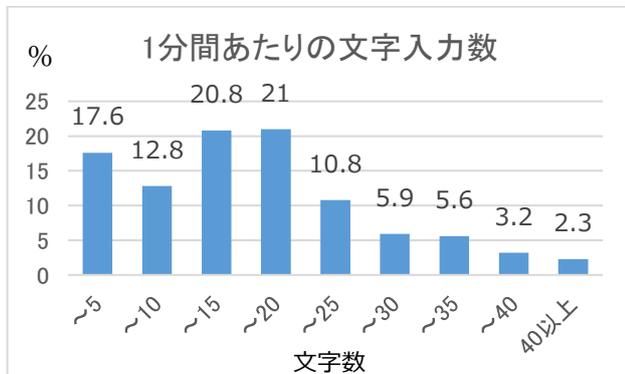
燕市 GIGA スクール通信

低学年から始めるローマ字入力「はじめてのキーボード」

ICT 機器等の活用を進めていくうえで、タイピングは基礎となる技能といえます。このたび学校教育課では、タイピングプログラム「はじめてのキーボード」を作成しました。これは、低学年でもキーボードのローマ字入力が学習できるように開発されたプログラムで、2月から燕市内の小中学校に紹介しています。

子どもたちの文字入力能力は？

文部科学省が令和3年度に実施した「情報活用能力調査」によれば、キーボードによる文字入力は、小学5年生で1分間あたり平均15.8文字でした。グラフが示すように1分間あたり5文字以上の入力が難しい児童も一定数いることが分かります。



そこで学校教育課では低学年でも取り組めるタイピングプログラム「はじめてのキーボード」を作成しました。その特徴を紹介します。

スモールステップで取り組みやすい

「はじめてのキーボード」は、21のスモールステップで構成されています。使い方に慣れてくれば10分程度でできるので、授業のちょっとした時間や朝学習、さらに家庭学習などで気軽に取り組むことができます。

学習者にやさしい支援



どのキーを押せばいいかわかるように画面下にはキーボードが表示され、必要なキーが色付きで示されます。また、タイプミスをしたときには、正しい文字が表示されるようになっています。

目で覚えるタイピング

ローマ字入力を目で覚える、あるいは手で覚えることができるように、必要なキーが色付きで示されます。学習後は、キーボードのプリントに学習したキーを書き込みます。



運指も学習できる

各ステップは、ホームポジションに指を置くことから始まります。学習の前半は画面のキーボード上に指のイラストが表示され、自然と運指が身につくように工夫されています。また、運指を強要しないという配慮から、学習の後半は指のイラストは出さないようにしました。

外国語学習での活用も

小学校の外国語では、アルファベットの文字の名称（Aを「エイ」）は読めるように指導しますが、語の中での音（Aを「ア」）を読めるように明示的には指導しません。中学校の英語では、小学校とは異なり、文字情報だけで理解できるように学習します。英語の苦手な児童生徒には、「英単語の文字情報と発音の関係が理解できていない（「k（クッ）」と「a（ア）」で「ka（カ）」となる）」という問題があることがみられます。

このローマ字タイピングソフトで学習する際に、JTE（英語指導員助手）が、アルファベットの語の中での音の発音も同時に教えることで、音の成り立ちを意識させ、英単語を読むための基礎を身に付けさせることも期待できます。

JTEは、このソフトの使用方法や指導方法の研修を受けており、このソフトを使用して指導をされる際に、アルファベットの発音と音の成り立ちの指導も含めて、お手伝いすることができますので、ご希望のある際はJTEにお尋ねください。

ぜひ！ご活用ください！



利用方法についてのお問い合わせは燕市 ICT 支援員〔担当：森田〕までご連絡ください。



オンラインを活用！「燕キャプテンミーティング」

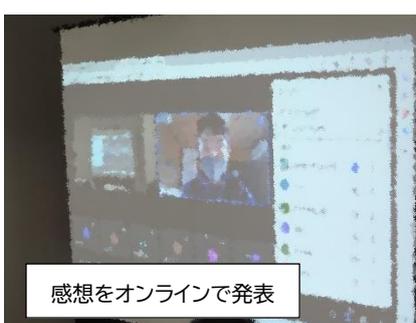
昨年 12 月 17 日（土）に燕キャプテンミーティングを実施しました。

当初は、分水公民館を会場として開催予定でしたが、1 週間前から、燕市内には新型コロナウイルスの感染が拡大しており、急遽、オンラインでの研修に変更させていただきました。市役所の会議室に配信スタジオを設置し、参加者に講演・ディスカッションを配信しました。

参加者は部活動として学校に集合して一緒に参加（視聴）したり、各家庭から参加したりしました。学級閉鎖中で外出することができない生徒も参加することができたことなど、オンラインのよさもありました。ICT 活用の可能性を感じる事ができた研修となりました。



市役所スタジオから配信



感想をオンラインで発表



参加者への配信画面

講師は日本文理高野球部元キャプテン 3 年生竹野聖智さん・元マネージャー 3 年生中原優斗さん

開志学園高女子硬式野球部 3 年生関口心愛さん（※3 名とも、昨夏、甲子園球場で開催された全国大会出場）
コーディネーターは新潟野球ドットコム岡田浩人さん